

題目:「あなただけ」が求められる社会—対人関係競争性と排他的資源投資行動—

氏名:山田順子

指導教官:結城雅樹

本研究の目的は、対人関係において人がいかにパートナーを獲得するか、その具体的な行動戦略とそれを導く心理プロセスを明らかにし、これらの対人行動や感情に及ぼす社会生態学的環境要因の影響を検討することである。

恋愛関係や友人関係といった対人関係の形成や維持は、社会生活を営む人間にとって必要不可欠である。恋愛関係は相互扶助や配偶行動を通じ個人の包括適応度を上昇させる(Buss & Schmitt, 1993)。また友人関係は、社会的・情緒的サポートの源になるほか(福岡・橋本, 1995)、第三者との喧嘩や争いといった葛藤の解決に役立つ(DeScioli & Kurzban, 2009)。ゆえに、自分にとって望ましい相手をパートナーとして獲得することは重要な適応課題となる。

では、どうすれば望ましい相手をパートナーとして獲得できるのだろうか。その戦略の一つが、特定の相手に対して他者に対するより多くの資源を投資する、排他的集中資源投資行動である(DeScioli & Kurzban, 2009)。排他的集中資源投資行動は、自発的にパートナー以外との関係を断ち切り、自分が相手を裏切らないという安心を与える。それにより、相手に自己の魅力をアピールし、関係相手として選択されることにつながる。本研究は、この戦略を導く心理プロセスとして、個人を特定の相手との関係形成に動機づける機能を持つ“情熱(e.g., Sternberg, 1986)”に着目する。そして、情熱の高まりが、排他的集中資源投資行動を導くとの仮説を立てた。

しかし、こうした排他性の高い感情や行動の有効性は、社会によって異なる可能性がある(e.g., Gao, 2001)。そこで本研究は、情熱の高さや排他的集中資源投資行動の有効性に、当該社会における対人関係の選択肢の多寡である関係流動性(Yuki et al., 2007)が影響すると考えた。高関係流動性社会は、個人の関係形成機会が潤沢で、対人関係の組み替えが容易である。このため、パートナーを他者に奪われる不安が高い。ゆえに、自発的に他の関係を断ち切り相手に安心を与える戦略が非常に有効だろう。一方の低関係流動性社会では、個人の関係形成機会は少ないが、一度形成された関係は安定的に長期間維持される。ゆえに、パートナーを奪われる不安は低く、安心を与える戦略の有効性は高流動性社会よりも低くなるだろう。

以上のことから、まず研究1で、排他的集中資源投資行動がパートナーに対する情熱の反映だと認知されること、そして排他的な資源投資行動ほどパートナーの行動として魅力的だと評価されることを検討した。参加者は、主人公が自分の恋人または友人(パートナー)を含む3人の人物に対し、自己の時間資源(一緒に過ごす時間など)を投資するシナリオを読んだ。主人公の資源投資パターンとして、排他性の異なる次の3種類が提示された:①排他的集中資源投資(パートナーのみに全資源を投資する)、②集中資源投資(パートナーに対し、他の人物に対するよりも多くの資源を投資する)、③平等投資(全員に平等に資源を投資する)。参加者は、各資源投資パターンについ

て、その行動をとった場合に、主人公がパートナーに対してどの程度情熱を抱いていると思うか、またパートナーとしてどの程度魅力的かを評価した。

研究1の結果、予測通り、排他的な資源投資行動ほど、パートナーに対して高い情熱を抱いていると評価され、かつパートナーの行動として魅力的であると評価された。

以上を踏まえ、研究2では、排他的な資源投資行動ほどパートナーの行動として魅力的だと評価されること、またパートナー獲得戦略として採用されることを検討した。また、これらの傾向が低関係流動性社会よりも高流動性社会において顕著であることを検討するため、関係流動性の異なる日本(低流動性)とカナダ(高流動性)で国際比較研究を行った。参加者は、研究1同様、主人公が自分のパートナーを含む3人の人物に対して資源投資を行うシナリオを読み、3種類の各資源投資パターンについて、続く質問に回答した。参加者は、各資源投資パターンについて、その行動をとった場合に主人公がどの程度パートナーとして魅力的か、また自分がパートナーを獲得する場合にどの程度戦略として採用するか、を評価した。

研究2の結果、恋人関係の場合、平等な投資行動よりも、排他的な資源投資行動の方が魅力的だと評価された。だが予測に反し、この傾向に日加差は見られなかった。戦略採択度に関しても、平等投資よりも排他的資源投資が戦略として採択すると評価され、この傾向にも日加差は見られなかった。しかし、部分的ではあるが、カナダ人において、日本人よりも排他性の高い投資行動をより戦略として採択すると評価された。また友人関係の場合、予測に反しパートナー以外に一切資源を投資しない行動はもっとも魅力度が低く、戦略としても採用しないと評価された。恋愛関係同様、これらの傾向に日加差は見られなかった。また、排他的集中資源投資行動の魅力度および戦略採択度と関係流動性の間に関連は見られなかった。

本研究では、排他的集中資源投資行動と情熱が関連していると人々が認知していること、および排他的な資源投資ほど魅力的と評価され、特に恋人獲得戦略として採択される傾向が示された。しかし、研究2において日加差が見られなかったことや、もっとも排他性の高い資源投資パターンの魅力度評価が低いなど、検討すべき問題が残る。今後、これらの問題について再度検討を行い、さらなる研究を行う予定である。